山弓連会報　さんきゅうれん 平13.第5号　平成13年12月20日発行

山弓連

平成13年 第5号

山日YBS杯大会 佐野が覇権奪還（称号）

矢頭（有段）・梶本（女子）は初V

11月23日

第15回山日YBS杯大会、11月23日小瀬武道館で開催。熱戦の結果、称号の部は、佐野辰巳（南巨南）が3年ぶり、有段の部は矢頭恵造が、（大目）女子の部は梶本かね代（南巨北）が、それぞれ初の優勝を飾って閉幕した。試合経過と入賞者は次の通り。

○女子の部

申しこみ33名、当日参加者29名。予選通過者（2中以上）7名と、少々さびしい。その中で初段の白須由香が皆中（4中）したのが光った。決勝射詰めに入り、まず一射目。一番立ちの白須、予選あれほど快調だったのに、思いがけなく失中。するとまるで連鎖反応のように次々に全員が失中。続いて二射目も、的中は2名、そして三射目で優勝が決まった。女子の部の成績は、チトさびしい。しかしその中で還暦すぎての（失礼）梶本の優勝は立派。若手の奮起を望む。ベテランに負けない力をもった若い選手がいっぱい居るのだから、どんどん追い越して、そして国体選手などにも、どんどん名乗り出てきてほしい。

○有段の部

申しこみ84名、参加者65名。予選通過者40名。予選皆中6。決勝射詰め、一射目で22名脱落。二射目で更に6名が落ち、三射目に残ったのは12名となり、予選皆中者でここまで来たのは1名のみ。他の5名は、一、二射目で早々と落ち、射詰競技の難しさをあらためて痛感した。優勝は、延々と5射目まで追込んで決した。優勝した矢頭は、予選も射詰めまでの9射～一本も外さず、みごとな勝ち方であった。また、3～5位になった4名とも射詰め4連中で並ぶという大接戦であった。入賞者ががラリと顔ぶれをかえたのも今年の特徴。特にベテランが頑張った。ここでも若者のまき返しをおおいに期待したい。

○称号の部

申しこみ31名、参加者22名。予選通過者16名、予選皆中2名。射詰め三射目に残ったのは3名。他の13名は、一、二射目で討死。しかし、流石に称号の部の射詰めは見ごたえがあった。いつ果てるのかと固唾をのんで見守っていたが、遂に六射目で決した。この部でも優勝した佐野は、予選も射詰めまで皆中（10連中）であった。

各種別の入賞は次の通り。

別	順	氏名	支部	予選	射詰
女	1	梶本かね代	南巨	2	2
	2	梶原美紀	東八	2	1
	3	大野陽子	中巨	2	遠近
有	1	矢頭恵造	大月	4	5
	2	細田正樹	甲府	3	4
	3	中込康之	中巨	2	4
	4	新藤康章	中村	2	4
	5	村上一郎	北巨	3	4
称	1	佐野辰巳	南巨	4	6
	2	笹本明樹	中巨	2	5
	3	綿奈部達丈	甲府	2	4

尚、入賞者以外の、予選皆中者、7名。白須由香、深沢人司、志村長茂、石倉優一、矢野宏之、松本潤、河西伊三男

納射会 昇格受賞祝賀会

12月9日、小瀬武道館で。はじめに祝賀セレモニー。今年の昇格、受賞者は5名。

- 錬士昇格　望月善雄（西八）、石瀬千鶴子（塩山）・中込実（中巨）・小沢重平（南巨北）
- 県体育功労者　古屋俊彦（甲府）

を紹介披露して記念品贈呈。続いて、会長挨拶し、支部代表による持的射礼の祝射、受賞者の答射礼を行い、その後、参加者全員の一手祝射。その後、四ツ矢の競技で、ことし納めの会を終った。

競技成績は、祝射を含めた6射の合計により、次の通り入賞を決めたが、優勝は、6射皆中同士の射詰めという、納めの会にふさわしい有終の美を飾った。

一位　深沢 勇（中巨）6中
二位　中込康之（中巨）6中
三位　河西伊三男（甲巨）5中

清流杯大会 石和

石和体協主催11月4日。参加者84名。はかに石和町弓道スポ少（山弓連予備軍？）13名も特別参加。競技は近的各自8射の個人戦と団体戦、と、遠的8射の個人戦を行う。成績次の通り。

○近的個人戦

順位	選手名	所属	的中
1	細野晃史	甲府	7
2	水上梨沙	石和	7
3	荒井寿一	吉田	7
4	小沢重平	増穂	7
5	梶本かね代	増穂	7

○近的団体戦

順位	チーム（選手）	的中
1	増穂（斉藤・梶本・小沢）	17
2	白根（中込・大野・河西）	13
3	富士嶺（白須・小山田・渡辺）	13

○遠的個人戦

順位	選手名	所属	的中
1	細野晃史	甲府	7
2	保坂兼光	玉穂	7
3	中込実	白根	7

（石和弓道部からの報告。）

高校新人大会

全国選抜大会山梨県予選

高校新人戦兼全国選抜大会県予選。10月26～27日開催。競技方法は、まず予選で上位8校を選び、次いで4チームずつのA・B二つのパートで決勝リーグを行い、双方のパートの一位同士で優勝決定戦を行うという方式。

◎女子の部

参加は23校の45チーム。予選通過8チームの中に、上野原、巨摩、甲府東が2チームずつ残って、他校から頭ひとつ抜け出た感。

・決勝リーグの結果。

Aパート チーム	A	B	C	D	勝数
A 上野原A	╲	⑦	⑩	⑦	3
B 吉田A	7	╲	⑥	⑥	2
C 上野原B	5	4	╲	6	0
D 巨摩A	7	5	⑨	╲	1

Bパート チーム	A	B	C	D	勝数
A 巨摩B	╲	⑧	⑤	4	2
B 甲府西A	5	╲	⑨	⑨	2
C 甲府東B	4	5	╲	2	0
D 甲府東A	⑨	6	⑧	╲	2

一位 上野原A
一位 甲府東A（的中差）

・優勝決定戦
上野原A 9（3）―⑨（3）甲府東A
同中競射の末、甲府東高が優勝。

◎男子の部

参加数25校44チーム。予選通過は、巨摩が2チームのみで他は1チームずつの7校。こちらは（女子に比べて）群雄割拠の戦国時代の感。学校間の力の差が縮まって拮抗してきたということか。

Aパート チーム	A	B	C	D	勝数
A 巨摩A	╲	⑨	⑧	⑨	3
B 甲府西A	6	╲	③	4	1
C 白根B	4	3	╲	5	0
D 北富士A	5	⑤	⑤	╲	2

Bパート チーム	A	B	C	D	勝数
A 甲府工A	╲	5	⑨	⑧	2
B 桂A	⑤	╲	⑨	7	2
C 巨摩B	7	7	╲	5	0
D 上野原A	7	⑨	⑨	╲	2

一位 巨摩A
一位 上野原A（的中差）

・優勝決定戦
巨摩A ⑦（3）―7（3）上野原A
こちらも同中競射で巨摩高優勝。

◎この結果、次の通り県代表が決定した。健斗を祈る。

大会	男	女
全国高校選抜大会 3/23～	巨摩高	甲府東高
東日本高校大会 12/22～	巨摩高 上野原高	甲府東高 上野原高

◎尚、この新人戦での個人入賞は～

別	順位	氏名	校名	的中
女	1	丹沢仁美	甲府東	7
	2	和智さゆり	上野原	6
	3	矢野久美子	甲農	6
男	1	日向一希	甲府工	7
	2	島崎誠	上野原	7
	3	金丸一矢	甲府工	7

関東選抜大会

11月23日 宇都宮

山梨からは、（有段）水上梨沙、荒井寿一、深沢勇、細野晃史、渡辺元樹、（称号）白須吉人、松田恭昭、横興次、長田良久、若山忠夫の10名が出場し、関東各地連の猛者と覇を競い健斗したが、惜しくも入賞することは出来なかった。技能審査点でも上位進出者はなかった。的中成績は次の通り。

地連	有段	称号	合計
東京三	17	26	43
山梨	18	17	35
茨城	25	15	40
東京二	17	20	37
千葉	18	15	33
栃木	15	13	28
神奈川	21	15	36
埼玉	10	17	27
東京一	17	19	36
群馬	20	16	36

全日本選手権大会

9月20～23日伊勢市で開催。男子の部に山梨からは松田恭昭が出場。全国から集まった選手は殆ど教士ばかり、中には教八まで含まれた強豪ぞろいの中で善戦したが、一次予選通過成らず。女子の部小林弘子は急病の為に欠場。

話題 やった!! 継ぎ矢

ときは平成13年9月15日、ところは甲府青葉弓道場。細田正樹さんがいつもの通り、ていねいに一手ずつ練習していたところ、的心に的中した甲矢の筈を貫いて、乙矢も的中、みごとな継ぎ矢を達成した。その日は祝日の「敬老の日」。続いて細田さんはことし60才の「還暦」のとし。まことにめでたい記念の日となった。

このあと11月23日の山日杯大会では準優勝を果たした程の腕前からみて、この日の継ぎ矢も、あながちマグレアタリとはいえず、出るべくして出たものといえるかも知れない。オメデトウ。

あとがき

○この号が皆さんの手に届く頃は年がかわって、新しい年になっているかも知れませんね。平成14年は午（馬）の年。元気な馬の顔に出迎えてもらうことにしました。

○気がついたことを少し～（ことし最後のコゴトと言ってもいいかな）

・県外審査の請求書の書き方が雑という注意を受けました―他県から―。「心をこめて、ていねいに書いて下さい。「請求書も審査対象」というくらいの気もちで…。

・山梨を代表して出席した「講習会の遅刻」「大会開会式のおやすみ」を指摘されて恥ずかしい思いをしました。一挙手、一投足をみんなが見ています。他県でお世話になった時には、帰りに地元の方にお礼のヒトコトを言って帰るべきです。

○何はともあれ、新しい年を迎えるのはめでたいことです。一年毎に技を磨き、人格を磨いて、りっぱな山弓連を育てて下さい。